

## 海外巡回健康相談レポート

### 「ハノイ相談会に行って」～対面だから出来る事を感じて～

戸谷 歯科医院 戸谷 まどか

世の中は、遠隔診療など病院に行けなくても診察を受けられる時代になっています。巡回相談はそう考えると、真逆の方向にあるのかも知れませんが、今回ハノイ巡回チームの一人として参加して、相談される側が海を越えて出向く意義がある、遠隔での行為では乗り越えられぬ壁がある、という思いを強くいたしました。

私が巡回相談に同行させていただくのは、この巡回でメインの田中健一先生とのご縁からでもあります。私が歯科医師とは別に子育て支援に関わる仕事をしている事も大きく関わっていると思っています。

私は埼玉県熊谷市にある子育て支援拠点(孤独な育児にならず親も子をも支援していく事を目的として開放された広場)の開設に関わってきました。きっとこの様な場所はどの市でもかなりの数が整っているとは思いますが、そこに来てくれる人は良いのですが、来られない人をどうするかという問題が生じておりました。そこで誰でも行くだろうと考えられるショッピングセンターの中にこの様な広場を作ったといういきさつがあり、私はそこに接しておりました。

話は戻りますが、ハノイ巡回では4カ所の幼稚園に出向き、園児の口腔のチェック、保護者の方で相談がある方には園の先生を通しての回答、あるいは直接文書での回答などをしておりました。

近くに歯科医院があっても、子供を連れて行くのは海外でなく日本であっても案外ハードルが高いものです。

通わせている幼稚園に歯医者が出向けば、自然になんらかの配慮が必要なお子さんにアプローチできるのではないのでしょうか。似た様な発想です。



さて、田中先生の検診は、一般的な歯科検診では行われないスタイルです。

まず、子供の口腔内をテンポ良く撮影します。園児も園の先生も虫歯など改善が必要な部分を画像から自分たちの目で見て確認します。画像には説得力があります。

さらに園児の口腔内からその子の持つバッググラウンドまでを推察し、園の先生にお子さんにあつた助言を包括的にしていきます。

保護者の方が同席していたら、その子にとってより効果的と思われるのですが、そのために必要な段取りはなかなか難しいのです。となれば、園の先生にそれぞれのお子さんの状況、予想される予後、その予後の内容によっては保護者にアクションしてもらうべきのかななどを伝えていきます。

園の先生に積極的に動いてもらうようになるには、こちらからの熱いアプローチが必要です。それには、メー





ルやテレビ電話などでは大きな熱量が感じられないのではないかと思います。

ハノイ巡回だけで、もう7回だそうで、その積み重ねで年々、園の先生達との距離が縮まり、熱が伝わりやすくなっている様に、私はまだ2回しか居合わせてはいないのですがそのように感じています。

ハノイの子供達の口腔内の特徴は、メイドさん任せのオヤツ管理や歯磨き習慣による多発性のう蝕歯、大気中の粉塵による着色歯など現地ならではの病態がどこの幼稚園でも一定数存在しておりました。

現地特有の疾患についても、やはり現地での空気を吸ってみて、そこで実るものを食べてみないとわかりません。

という訳で検診の後にぶらぶら歩くのと食べるのもチームで行っています(笑)

個人的には、お世辞でもキレイとは言えない店で、更に注文してもちゃんと通じたのか不明、それでも出てきて食べたフォーが絶品でした。それも驚くほど安いのです。日本円で100円ぐらいだったでしょうか。フォーは、おそらく安くてあまりハズレのないフードと言えるでしょう。

今回のチームは、田中先生のお他、JOMFの安部さん、ハノイに限らず巡回相談に年間通して同行経験があった吉津さん、私が最初にハノイ巡回に行った時のメンバー再結成?!と言わんばかりで、大いにいろいろと振り返りを行いました。



JOMFとしてのハノイ巡回相談は今回が最後となると聞いております。一定の役割を果たしている面も感じられましたが、現地でのラブコールが聞こえたような気も。

生物は、環境に応じて変化する適応力があるものが生き残っていきます。田中先生にお会いすると、毎年バージョンが変わっているのに気がつくので、違う紙面にてまた先生のお名前を随所に見かけるのではないかと考えています。

永きにわたる巡回相談事業はきっとハッピーの種を撒いてきたのだと思います。もう笑顔の花が咲いているところもあるでしょう。そしてこれからまた咲き出すのもあるでしょう。今回参加させて頂いてその一粒にでもなれたらと考えております。

ありがとうございました。